

公共投資プログラム運営監理強化プロジェクト

Project for Enhancing Capacity in Public Investment Program (PIP) Management (PCAP2)

ハイライト

- 新局長に聞く ブーンポン・シソラット局長 (1-2ページ)
- PCAP2最後の講師養成研修(TOT) (2ページ)
- PCAP2 3年次の活動の振り返り (3ページ)

新局長に聞く ブーンポン・シソラット局長

2010年7月からブーンポン・シソラット氏が計画投資省評価局長そしてPCAP2プロジェクトマネージャーとして就任されました。PCAP2では新局長へのインタビューを行いました。



Q. ブーンポン局長、自己紹介をお願いします。

計画投資省評価局の新局長として、またPCAP2のプロジェクトマネージャーとして、2010年7月に拝命し光栄に思います。

まず私の経歴からお話します。1984年に大学を卒業した後、最初の配属先は国家計画委員会(Committee for State Planning)という計画投資省の前身組織でした。当時は現在PCAP2のオフィスがある2階建ての小さな事務所だけでしたが、再び同じ場所で働いております。当時はたった二つの駐車場があるだけで、一つは大臣用そしてもう一つは副大臣用というものでした。

2年間貿易局、国際関係局、都市計画局で業務を担当した後、1986年サバナケット県に異動しました。サバナケット県では、計画局、財務局、貿易国際関係観光局で働きました。

1999年からはビエンチャン市で業務をしておりました。そこでは、貿易投資観光局の局長を務めま

した。それから2009年5月に計画局長に就任致しました。そして2010年、24年ぶりに自らの仕事の第一歩を踏み始めた場所に戻ってまいりました。私は、2005年からは、国会議員として、立法と行政関係の複数のポストを担当しています。

Q. これまでのPIPマネジメントに関するご経験や苦労された点などをお聞かせ下さい。

これまでに複数のPIPプロジェクトに関わってきました。サバナケット県の大規模灌漑プロジェクトや国道13号線建設プロジェクトです。当時我々もガイドラインに沿って仕事を行い、モニタリング評価を実施していましたが、PIPプロジェクトのマネジメントは簡単ではなく、いくつかの問題はまだ残っていると感じています。

いくつかある課題の1つ目として、職員のプロポーザルや報告書を書くスキルを向上させる必要があります。現在はこのスキルが不十分であるためにプロジェクト情報が不足しがちです。2番目の課題としては、プロジェクト情報の提出方法や予算要求プロセスの明確化、各機関での担当者の明確化だと思いません。3つ目の課題としては、評価者のキャパシティを上げる必要があることです。4つ目の課題としては、プロジェクトモニタリングを実施するための予算が十分ではないことです。また運営維持管理のための予算も十分ではありません。

JICA技術協力プロジェクトであるPCAPフェーズ1とPCAPフェーズ2は非常によい時期に始まりました。PCAPプロジェクトのおかげで徐々に課題が改善されています。公共投資(PIP)法制定のきっかけとなっ

1ページからの続き (局長インタビュー)

たのはPCAPの活動のおかげですし、多くのPCAPの活動の内容がPIP法の条項に含まれています。

Q. 今後のPIPマネジメントの方向性についてどのようにお考えでしょうか。

計画投資省は今後ともPIPマネジメント能力向上のために努力を続けなくてはなりません。計画投資省は現在、PIP法の施行令を策定中です。計画投資省とPCAP2は今後もより一層協力をしながら、プロジェクト実施者と契約者との規制を設け、PIPプロジェクトの成果を生みだし、国家の発展のためにつながるような支援を続けていく所存です。

PIPマネジメントの3つの柱である、法律・マニュアル

ル・施行令が全国で適応されるまでには、まだ何年かかかると思います。しかしながら、計画投資省の貢献やPCAP2の支援、さらには規律やプロジェクト実施者のおかげで、PIPマネジメントは国家開発のために大変役立つこととなるでしょう。

局長、お忙しいところ
ありがとうございました。



(インタビュー：奥村、
PCAP2 ローカルコンサルタント：サマン)

PCAP2最後の講師養成研修(TOT)

2010年8月、計画投資省において、待ちに待った講師養成研修(以下、TOT)がスタートしました。このTOTの目的は、2010年11月から2011年3月にかけて実施される予定の一連の公共投資事業運営監理研修の講師を養成することです。来年度の研修は、PCAP2で実施する最後の研修であり、本TOTもPCAP2最後のTOTとなります。計画投資省の、評価局、計画局、国際協力局、それからPCAP2の提案により今年度から新たにPCAP2の活動に参加し始めている人事組織局の合計4つの部局から、総勢25人がTOTに参加する予定です。

本TOTは10日間(合計30時間)のプログラムの中で、次の9つの公共投資事業運営監理手法についての理解を深めると共に、講師に求められるスキルを習得できるようデザインされています。

●9つの研修単元

- ①公共投資法
- ②公共投資事業の年次予算申請手続き
- ③公共投資事業の財務管理手法
- ④公共投資事業の申請方法
- ⑤ODAラオス政府負担金の運営監理手法
- ⑥事業申請プロセス
- ⑦メタ評価(事業審査・モニタリング・評価の評価)

⑧プログラム・オブジェクト
ブ・ツリーを用いた事業相対評価
手法

⑨郡レベルの公共投資プログラム
運営監理手法

●講師に求められるスキル

- ①プレゼンテーション・スキル
- ②インストラクション・スキル
- ③ファシリテーション・スキル

本TOTは、大きく2つのパートに分かれて実施されます。1つ目のパートは、PCAP2のコアトレーナーが、TOT受講者に対して各研修単元のプレゼンテーション、内容の詳細説明を行うことで、TOT受講者が各単元についての理解を深めることを目標としています。

2つ目のパートは、TOT受講者自身による模擬演習です。TOT受講者は模擬演習を通して、研修内容を研修参加者に正しく伝え理解させるための「プレゼンテーション・スキル」、研修参加者の興味を惹き、参加者を実際に「できる」ようにする「インストラクション・スキル」、研修参加者同士の気づき・学びや意見交換を促進させる「ファシリテーション・スキル」、の3つのスキルを向上させることが目標です。

TOTプログラムの最後には、ベスト・トレーナーが選ばれる予定です。さて、誰がPCAP2最後のベスト・トレーナーに選ばれるのでしょうか。

(文：平良)



PCAP2 3年次の活動の振り返り

2009年10月から2010年8月までのPCAP2 第3年次の主な活動や出来事を振り返ります

年月	主な活動
2009年 10月	3年次活動開始
11月	PIP法の国会承認、JICA中間評価 PIPマネジメント研修開始
12月	SEA Game開催、PIP法の発行 PIPマネジメント研修（継続）
2010年 1月	PIPマネジメント研修（継続） PIPマネジメント財務研修の実施
2月	PIPマネジメント省庁研修の実施
3月	OJT研修の実施、第4回JCC会議の実施 チュンマリーラオス国家主席の訪日
4月	ピーマイ（ラオス正月）
5月	マニュアル/ハンドブック改訂作業
6月	マニュアル/ハンドブック改訂作業 （継続）
7月	ブンポーン氏評価局長への就任 メタ評価・MPI講師養成研修の準備
8月	MPI職員に対する講師養成研修の実施 メタ評価の実施 第5回JCC会議実施、第3年次活動の終了



PCAP2の3年次の活動も終わりを迎えようとしています。今年度の大きな活動の成果としては、第2回PIP全国研修がまず挙げられます。14名の職員が研修講師として、全国各地を訪れ、合計862名の省庁と県職員に対するPIPマネジメント研修を行いました。またPIP財務研修においても全国から参加した81名に対しての研修を行いました。

PCAP2が目指す活動を大きくサポートする出来事としては、PIP法案が国会承認を経て、大統領令のもと正式発効されたことです。現在MPIでは詳細規定を盛り込んだ施行令の策定を行っており、今後ともPCAP2でも支援を続けていく予定です。

JICAプロジェクトとしては、中間評価がありました。4年間の活動年度のうち半分が過ぎたところで、JICA本部からの調査団が評価を行いました。活動に対しては高い評価をいただき、引き続きよい活動を継続していく所存です。

また大きな人事交替として、PCAP1の開始当初か

らプロジェクトマネジャーを務めたビサイ氏からブンポーン氏への交代がありました。新たな舵取りの元、PCAP2も順調な航海を進めています。

この1年、ラオスでの大きな出来事としてSEAゲームを外すことはできません。SEAゲームはアセアン地域で開催されるオリンピックで第25回大会は12月9日から18日までラオスのビエンチャンで開催されました。ラオス人選手のメダルの獲得数は参加国12カ国中7位で、特に金メダルは33個と6位のシンガポールと同じであり賞賛されるに値します。その他インフラ整備など開催国としての責務や、ラオス国民の一丸となった応援や対応は近隣諸国に対してもラオスの存在を大きく示す出来事となったと思います。

PCAP2の第4年次はプロジェクトの最終年度となります。2010年10月から2011年8月の間、全国研修、OJT研修、JICA終了時評価などを通して、また全国の皆さんとお目にかかるかと思えます。(文：石垣)

プロジェクトスタッフ紹介

●MPIの調整役としてプロジェクトを支えてくれるお二人を紹介致します。●

ブンミー・シーチャンラーさん（計画投資省 評価局、PCAP2 調整員）



皆さん、こんにちは。私はブンミー・シーチャンラーと申します。計画投資省の評価局の総務課で働いております。最近PCAP2の調整担当として任命されたので、まだお目にかかったことのない方も多いかと思えます。私は裏方役として、県や省庁で働く同僚たちが、PCAP2マニュアルを実務で活用できるよう各種の調整業務を行っています。皆さんに1日も早くお目にかかりたいところですが、5月に生まれた娘の育児に専念させていただいています。

私の趣味は、モデル、ラオスの伝統舞踊を教えること、そして自分自身で踊ることです。（本当ですよ。伝統舞踊で表彰されたことがたくさんあります）それでは、職場復帰後1日も早く皆さんにお目にかかることを楽しみにしています。もし仕事の面で不手際があるようでしたらご容赦下さい。

ボケオ・シーポンサイさん（計画投資省 評価局、PCAP2 調整員）

ボケオ・シーポンサイと申します。計画投資局評価局の経済評価課に所属しております。私もMPI-PCAP2 プロジェクトの調整担当として働いています。同時に2つの異なる仕事を行うことは多忙でとても大変ですが、両方から多くのことを学ぶことができます。自分が果たす仕事を誇りに思いますし、これまで全国の異なるセクターで働く同僚のために貢献することができ光栄に思います。ただ、もしこれまでに不手際がありましたら温かく見守っていただければと思います。皆様からのご意見やご指示を真摯に受け止め、よりよいサービスの向上のために努力していきたいと思えます。

趣味はサッカーをすることです。皆さん、これからもよろしくお願ひします。



プロジェクトカレンダー

2010年7月～9月活動概要

- 7月：マニュアル改訂、研修教材改訂
- 8月：MPIのTOT実施、メタ評価実施
第5回JCC開催、第3年次活動終了
- 9月：3年次活動精算と4年次準備

2010年10月～12月活動予定

- 10月：第4年次活動開始・研修準備
- 11月：県DPIの局長向けセミナー
DPI実務者研修
- 12月：1都16県での事業実施者向けPIP研修

● 編集後記 ●

4か月ぶりにラオスに戻りました業務調整の石垣です。毎日雨が降って日本より涼しいくらいのビエンチャンです。建設中の新MPIビルがとても高くなっていたり、町中に新しいお店ができていたり、毎日の発見が楽しいです。8月末でPCAP2の3年次が終了します。4年次が始まる10月まで、皆様お元気で！（石垣）

プロジェクトでは、皆様のご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。

お問い合わせ・送付先：

- プロジェクトオフィス：Ministry of Planning and Investment, Souphanouvong Avenue, Vientiane
- 郵送先：C/O JICA Laos Office, P.O.Box 3933, Souphanouvong Avenue, Vientiane
- 電話・ファックス：+856(0)21.243.687
- Eメール：jica.pcap2@gmail.com
- ホームページ：http://www.jica.go.jp/project/laos/0700667/laos/index.html